

都城市文化財調査報告書 第101集

都城市内遺跡 3

2010年3月

宮崎県都城市教育委員会

序 文

埋蔵文化財とは、文化財保護法第 92 条第 1 項に「土地に埋蔵されている文化財」と定義され、一般には「遺跡」と呼ばれています。遺跡は、地域の歴史を正しく理解する上で欠くことのできない貴重な文化財の一つです。現在の私たちの生活基盤を整え、より快適な生活を送るための開発事業が必要であることは言うまでもありませんが、その際に遺跡の保存との調和のとれた開発が望まれます。

本書は、都城市教育委員会が各種開発に対し埋蔵文化財の保護を図るため、平成 21 年度の国県補助を受け実施した市内遺跡の試掘・確認調査の報告書です。この報告書が各種開発事業の際の協議や調整に利用されるとともに、学術資料としても広く活用していただければ幸いです。

試掘・確認調査作業に従事していただいた市民の皆様をはじめ、地権者ならびに開発関係者の御協力を賜りましたことに対し深く感謝申し上げます。

平成 22 年 3 月

都城市教育委員会 教育長 酒匂 醸以

例 言

1. 本書は、各種開発事業に伴い、都城市教育委員会が国・県の補助を受けて平成 21 年度に作成した市内遺跡発掘調査報告書で、市内 10 地点（8 事業）において実施した試掘・確認調査の成果を掲載した。
2. 本書に掲載した調査区域図・土層断面図の製図、現場の写真撮影及び調査概要の執筆は、各調査担当者が行い、柴畑が編集した。
3. 古人骨の分析報告については竹中正巳氏（鹿児島女子短期大学）に依頼した。
4. 遺物の実測・製図は調査員の指示のもとに整理作業員が行った。
5. 出土遺物と各種記録類は都城市教育委員会にて保管している。

本文目次

第 1 章 はじめに	1
第 2 章 調査の記録	3
【公共事業】	
1 下切遺跡 樋掛遺跡 鍋前第 2 遺跡	3
2 八久保第 2 遺跡	10
3 王子山遺跡	12
4 平松遺跡（笛水小学校）	14
【民間開発】	
5 県指定志和池村 4 号墳	17
6 東原第 3 遺跡	35
7 大久保第 1 遺跡	37
8 狐東遺跡	40

第1章 はじめに

都城市は、宮崎県の南西部に位置する。東西・南北とも約36km、面積は653.8k㎡である。東に標高700mを越える山地帯である鱒塚山系、北西には霧島火山の高千穂峰（標高1573.7m）を仰ぐ都城盆地にあり、標高が概ね150m前後の盆地中央部には、多くの支流を集めながら、一級河川の大淀川が南から北へと貫流している。盆地の東側には大淀川の支流によって開析された扇状地が発達しており、西側には比較的起伏の少ない平坦で広大なシラス台地が形成されている。

都城市内における周知の埋蔵文化財包蔵地は、現状では山間部を除くと、各種地形面にまんべんなく分布しており、特に、大淀川やその支流沿いの河岸段丘面、台地縁部、開析扇状地の側端部において遺跡の密度が高い。また、当地方には霧島火山群や桜島火山をはじめとする火山群から噴出したテフラが数多く分布しており、遺跡調査の際の指標となっている。

本書には、公共事業や民間開発等の各種開発事業に伴い、都城市教育委員会が国県の補助を受けて平成21年度に実施した下記遺跡の試掘・確認調査を報告する。

試掘・確認調査掲載遺跡一覧表

番号	遺跡名（遺跡番号）	所在地	調査原因	調査期間	調査面積
1	下切遺跡 (TZ-0024)	高崎町大字田 1577 - 2・3 1区カ	農業関連事業	2009年4月27・28日、5月7・8日	24㎡
	輪掛遺跡 (TZ-0025)	高崎町大字田 1707 - 5・6 1区カ		2009年4月30日～5月8日	16㎡
	黒根第2遺跡 (TZ-0028)	高崎町大字田 1775 - 1・6 1区カ		2009年4月28～30日、5月11～13日、6月15～17日、8月26・27日	70㎡
2	八久保第2遺跡 (TJ-5066)	高城町有木 1587 - 77 付近	市道改良事業	2009年6月25・26日	5㎡
3	王子山遺跡 (YK 71)	山之口町花木 2580-1	校舎改築	2009年8月4日	18㎡
4	平松遺跡 (TZ-1013)	高崎町富水 959	体育館改築	2009年8月10・11日	14.25㎡
5	築池遺跡 (M10028)	下水流町 2541 - 1	住宅建設	2009年5月11～29日	101.5㎡
	【奥附定 志和池村4号墳】				
6	東京第3遺跡 (M8014)	菓子野町 10088	建物建設	2009年7月21・23・24日	16.5㎡
7	大久保第1遺跡 (M 8003)	乙原町 2172 1区カ	福祉施設建設	2009年9月28・29日	20㎡
8	黒東遺跡 (M6003)	平塚町 3172 - 1 1区カ	福祉施設建設	2009年12月2～4日	28㎡

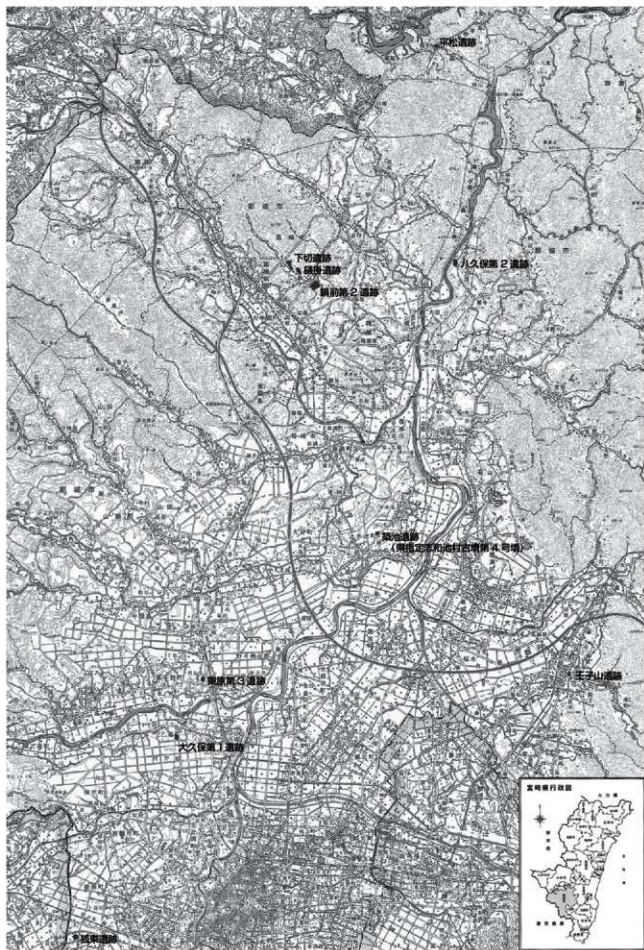
調査体制は下記のとおりである。

調査主体 都城市教育委員会

調査総括 都城市教育委員会 教育長 玉利 譲（平成22年2月24日まで）
酒匂 醸以（平成22年2月25日から）

調査事務局 同 文化財課長 坂元 昭夫
文化財課副課長 山下進一郎
文化財課主幹 矢部喜多夫
調査担当 同 文化財課副主幹 柴畑 光博
文化財課主査 久松 亮
文化財課主査 近沢 恒典
文化財課主事 山下 大輔
文化財課嘱託 下田代清海
庶務 文化財課嘱託 平川美奈子

整理作業員 奥登根子 水光弘子 尾曲真貴 新徳より子 児玉信子 吉留優子



第1図 平成21年度試堀・確認調査地点位置図 (S = 1/100000)

第2章 調査の記録

1 下切遺跡【TZ-O024】

樋掛遺跡【TZ-O025】

鍋前第2遺跡【TZ-O028】

調査地	宮崎県都城市高崎町大牟田 1577-2 ほか
調査原因	農業関連
調査期間	2009.4.27～2009.8.27
調査面積	110 m ² (対象面積：約 5.7ha)
調査担当者	柴畑光博・下田代清海
調査後の措置	協議 (本調査予定)



第2図 調査区位置図 (S=1/20000)

(1) 位置と環境

調査対象地は、大淀川の支流である高崎川左岸、小起伏山地（高崎山地）の東南裾部にある成層シラス台地面に立地する。いわゆる繩瀬台地群の一部にあたるこの台地には多数の浸食谷が樹枝状に入り込んでおり、複雑な平面形を呈している。対象地は大きく3つの台地に分かれており、それぞれの台地には北から下切遺跡、樋掛遺跡、鍋前第2遺跡が所在している。鍋前第2遺跡の東方には谷を挟んで鍋前第3遺跡がある。同遺跡は2004年度に県営中山間地域総合整備事業に伴って発掘調査され、弥生時代終末～古墳時代初頭の堅穴住居跡13軒が見つかった。

(2) 調査結果

①下切遺跡

12のトレンチ（64～68T，83～89T）を設定した。64～68Tでは、縄文時代と古墳時代の土器が出土し、65～68Tでは土坑・ピットなどの遺構も確認された。65Tでは霧島御池軽石層に掘り込まれた土坑が検出され、付近から縄文土器（第9図1）が出土した。古墳時代の土器が比較的まとまって出土した68Tでは、切り合った状態の遺構が確認された。すでに削平を受けているとみられる85・89Tと東側の谷に向かって傾斜する地点に位置する86Tでは遺構・遺物ともに確認されなかったが、83・84・87・88Tでは、縄文・弥生・古墳・平安の各時代の土器が出土し（第9図2，3～5）、平安時代の遺物がまとまって出土した84・88Tでは道跡やピットなどの遺構も確認された。

②樋掛遺跡

8つのトレンチ（75～82T）を設定した。すでに削平を受けている78・80Tを除いてすべてのトレンチから、縄文時代と古墳時代の土器が出土した。72・75・76Tでは比較的まとまって土器が出土し（第9図6～9）、79Tでは遺構と思われる落ち込みを確認した。

③鍋前第2遺跡

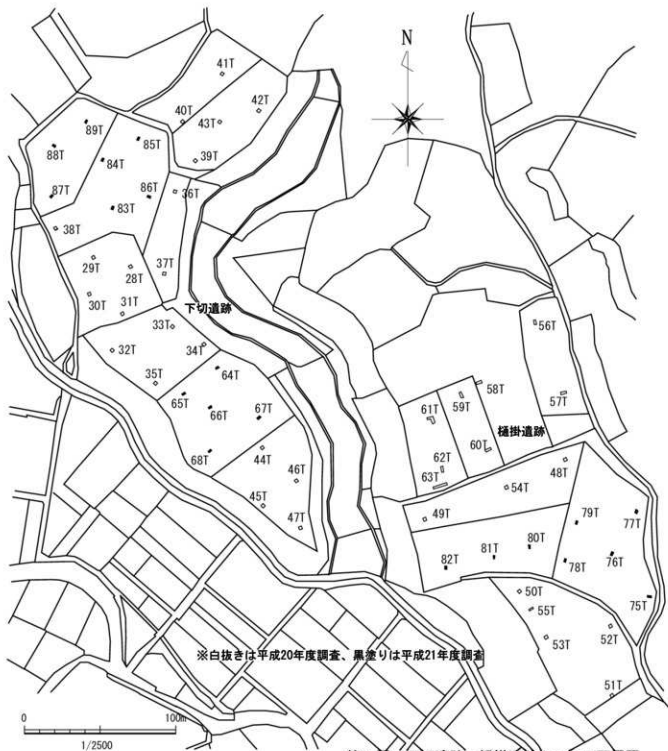
34のトレンチ（69～74T，90～117T）を設定した。昨年度の調査で遺構・遺物が検出されていた対象地の北側にあたる72・73Tで弥生～古墳時代の土器が出土した（第9図10・11）。また、98Tでは中世以前の道跡と思われる遺構が見つかり、99・101・113Tでは土坑・ピットが検出されたが、いずれのトレンチからも遺物は出土していない。対象地の中央部と南側では遺構・遺物ともに検出されなかった。

(3) まとめ

今回の調査では、下切遺跡と樋掛遺跡のほぼ全域から、鍋前第2遺跡は北半部に遺構・遺物が確認された。これまで各時代の考古学的調査データが少なかった高崎町大牟田地区において、縄文時代から中世までという幅広い時代の遺跡が比較的良好な状態で保存されていることが明らかとなった。

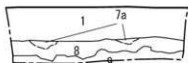


第3図 鍋前第2遺跡トレンチ配置図

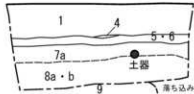


第4図 下切遺跡・樋掛遺跡トレンチ配置図

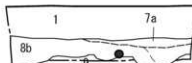
64T北壁(下切)



66T北壁(下切)



65T北壁(下切)



65T平面図(下切)

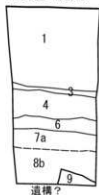


【土層説明】

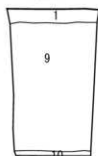
- 1: 褐灰色砂質シルト土＝耕作土
- 2a: 黒褐色砂質シルト土(軽石含む)
- 2b: 黄褐～灰色軽石、瓦片多く含む＝豊島新燃草保軽石
- 3: 黒色微砂質シルト土(スコリア含む)
- 4: 赤褐色スコリア＝霧島御鉢高原スコリア
- 5a: 褐灰色微砂質シルト土
- 5b: 黄灰色火山灰
- 6a: オリーブ黒色微砂質シルト土(暗褐色スコリア含む)
- 6b: 暗褐色スコリア遺棄層
- 7a: 褐色かかろ黒色粘質シルト土(黄色軽石少量含む)
- 7b: にぶい黄褐～暗褐色シルト土
- 8a: 黒色粘質シルト土(黄色軽石少量含む)
- 8b: 黒色粘質シルト土(黄色軽石含む)
- 8c: 黒褐色シルト土(黄色軽石多く含む)
- 9: 黄色軽石＝霧島御鉢軽石
- 10: 黒色粘質シルト土(黒二ガ)
- 11: にぶい黄褐～褐色シルト土
- 12: 灰褐色シルト土
- 13: 黄褐色火山灰＝鬼界アカホヤ火山灰

第5図 下切遺跡トレンチ土層断面図・遺構平面図

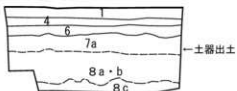
79T北壁 (樋掛)



80T (樋掛)



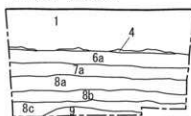
82T西壁 (樋掛)



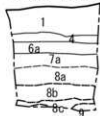
70T北壁 (鍋前第2)



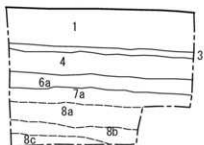
71T東壁 (鍋前第2)



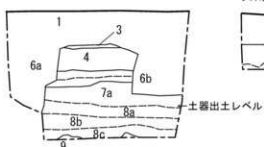
74T北壁 (鍋前第2)



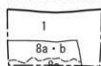
69T東壁 (鍋前第2)



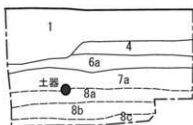
72T東壁 (鍋前第2)



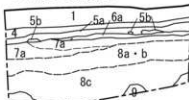
94T北壁 (鍋前第2)



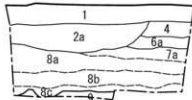
73T東壁 (鍋前第2)



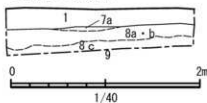
91T北壁 (鍋前第2)



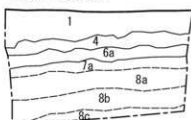
92T北壁 (鍋前第2)



90T北壁 (鍋前第2)



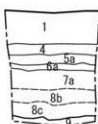
93T北壁 (鍋前第2)



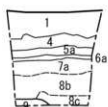
95T北壁 (鍋前第2)



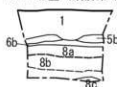
96T北壁 (鍋前第2)



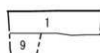
97T北壁 (鍋前第2)



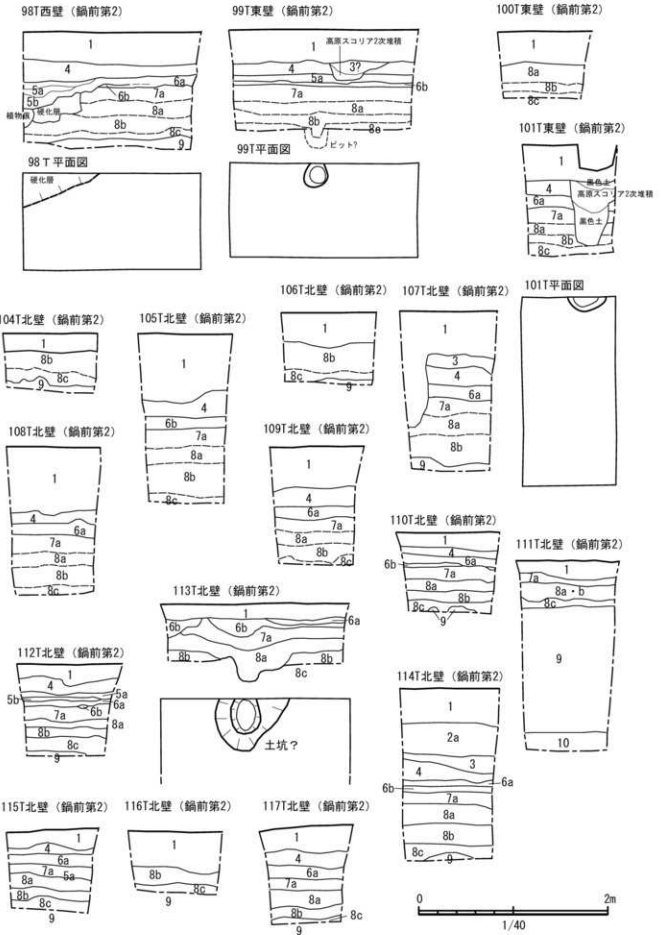
102T北壁 (鍋前第2)



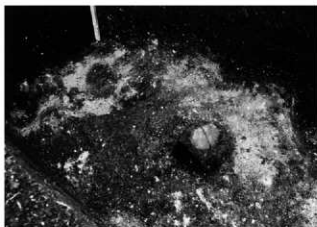
103T北壁 (鍋前第2)



第7図 樋掛遺跡・鍋前第2遺跡トレンチ土層断面図・遺構平面図



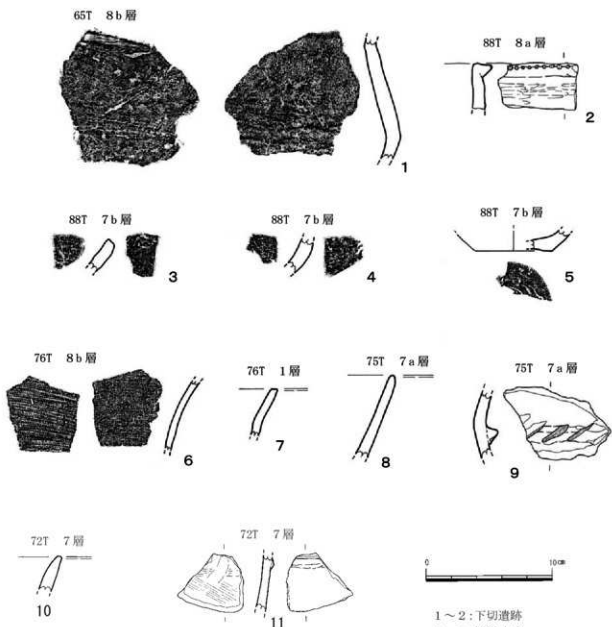
第8図 鍋前第2遺跡トレンチ土層断面図・遺構平面図



65T 遺物出土状況



88T 遺物出土状況



1・6＝縄文土器 2＝弥生土器 7～10＝古墳時代の土器

3～5＝平安時代の土器（布痕土器と土師器甕）

1～2：下切遺跡

3～9：樋掛遺跡

10～11：鍋前第2遺跡

第9図 出土遺物実測図

2 八久保第2遺跡【TJ-5066】

調査地	宮崎県都城市高城町有水 1587-77 付近
調査原因	市道改良事業（市道拡幅工事）
調査期間	2009.6.25～26
調査面積	5㎡（対象面積：約200㎡）
調査担当者	久松 亮・下田代清海
調査後の措置	床掘り工事立会後、工事着手



第10図 調査区位置図 (S=1/10000)

(1) 位置と環境

調査対象地は、大淀川右岸の成層シラス台地北側に形成された河岸段丘面上であり、北へ向かって緩やかに傾斜している。

(2) 調査結果

調査は拡幅予定地に1.5m×2mのトレンチを2カ所設定した。

南側の第1トレンチでは霧島御池降下軽石（約4200年前）の上層の褐色土中より、古代～中世の土師器片が多数出土した。遺構については、平安時代の土師器甕口縁部（第11図）が出土した地点付近で若干の落ち込みが確認できるものの、明確に遺構と判断できるものは確認できなかった。

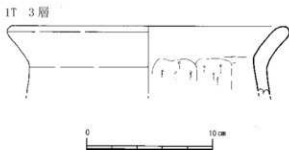
北側の第2トレンチでは霧島御池降下軽石層の上面まで近現代の耕作による掘削で破壊されていた。遺物は第1トレンチと同時期のものが出土したがその数は少なかった。第2トレンチは霧島御池降下軽石層下位の鬼界アカホヤ火山灰層及びその下層の黒色土層まで掘り下げたが、遺物は確認できなかった。各層上面にて遺構検出を行ったが、第2トレンチから遺構は確認できなかった。

(3) まとめ

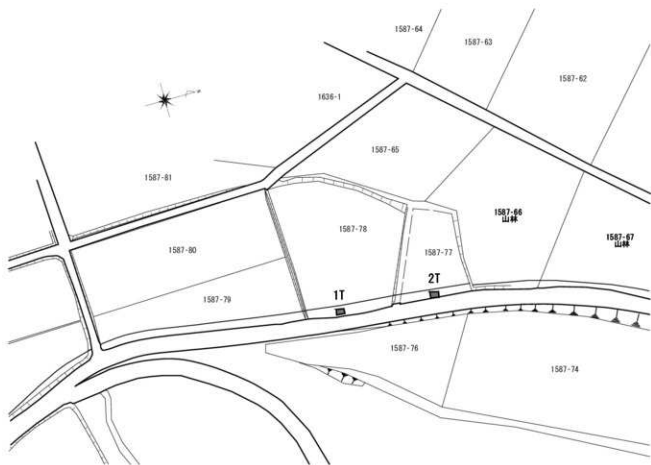
本対象地の南側を中心に、平安時代の土師器を中心とした遺物が出土しているが、明確な遺構は確認できなかった。



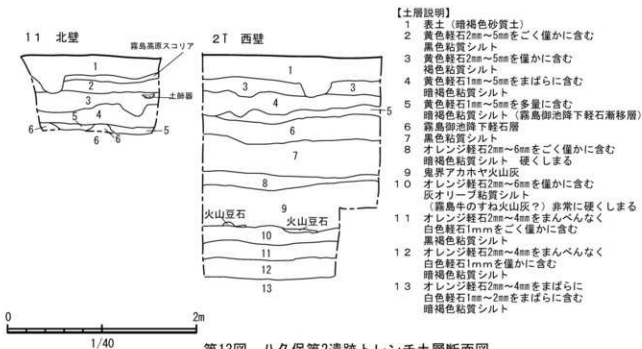
11 遺物出土状況



第11図 八久保第2遺跡出土遺物実測図



第12図 八久保第2遺跡トレンチ配置図 (S=1/10000)



第13図 八久保第2遺跡トレンチ土層断面図

3 王子山遺跡 (王子城跡) [YK71]

調査地	宮崎県都城市山之口町花木 2580-1
調査原因	学校校舎改築
調査期間	2009.8.4
調査面積	18 m ² (対象面積: 約 971 m ²)
調査担当者	近沢恒典・下田代清海
調査後の措置	協議 (本調査予定)



第14図 調査区位置図 (S=1/10000)

(1) 位置と環境

大淀川支流の花木川右岸のシラス台地面に立地する。西側眼下には、都城盆地中央部へ向かってのびる山之口扇状地が広がっている。現在は小学校の敷地として整備されている当該地は中世城郭の王子城跡と伝えられている。

(2) 調査結果

1～4 Tを設定し、重機により表土層を除去した後、手作業により掘下げを行い、地中の状態を観察した。

1・3・4 Tでは、造成土直下が上位を削平された霧島御池軽石層となる。それより下層は良好な堆積状況を保っていた。7層より礫が数点～10数点出土し、1 Tからは縄文時代早期の土器片3点も出土した。そのうちの1点を第15図に図化した。2 Tは造成土が1.9mと厚く、その下に上位を削平された霧島御池軽石層が検出された。

土層断面の観察より、旧地形は中央から東西方向へと緩やかに下り、4 Tと2 Tの間において大きく傾斜していたと考えられた。

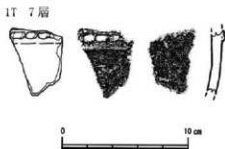
1・3・4 Tにて検出された礫は、縄文時代早期の集石遺構由来の散礫と考えられる。また少量ながら縄文時代早期の土器片も出土しているため、校舎周囲には現地表面下約1.7～2.3mに縄文時代早期の遺跡が良好な状態で残存していると考えられる。

(3) まとめ

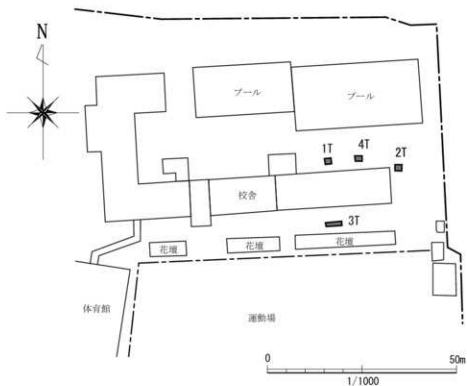
既存施設による削平・攪乱により、遺跡の上層が失われており、調査着手前に予想されていた中世の遺構・遺物は確認されなかった。しかしながら、鬼界アカホヤ火山灰よりも下層の縄文時代早期の遺物包含層が存在することが明らかとなり、集石遺構が存在する可能性もある。



1T 遺物出土状況

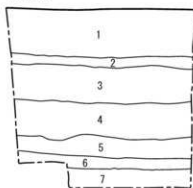


第15図 王子山遺跡出土遺物実測図



第16図 王子山遺跡トレンチ配置図

1T北壁



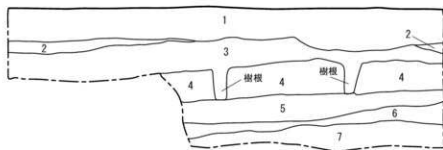
2T南壁



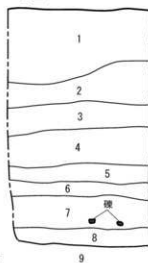
【土層解説】

- 1: 表土・整地層
 - 2: 露島御池軽石
 - 3: 黒色シルト
 - 4: 崖岸ツカホヤ火山灰
 - 5: 黒褐色シルト
(橙色粒1~5mmをごく少量含む)
 - 6: 黒褐色シルト
(橙色粒1~5mmをやや多く含む)
 - 7: 暗褐色シルト・礫を含む
(上位に橙色粒1~5mmをごく微量含む)
 - 8: 褐色シルト
 - 9: 褐色シルト(ブロック状の暗褐色土を含む)
- ※5~7層の橙色粒は桜島11テフラ (P11軽石) か?

3T南壁



4T西壁



第17図 王子山遺跡トレンチ断面図

4 平松遺跡【TZ-H013】

調査地	宮崎県都城市高崎町笛水 959
調査原因	体育館改築
調査期間	2009.8.10～11
調査面積	14.25 m ² (対象面積：約 800 m ²)
調査担当者	柴畑光博・下田代清海
調査後の措置	協議 (本調査予定)



第18図 調査区位置図 (S = 1/10000)

(1) 位置と環境

調査地は、大淀川の支流である岩瀬川の右岸、北側と南側に山地に囲まれたシラス台地西端に位置する。やや南方には縄文時代と中世の池田遺跡が所在する。

(2) 調査結果

体育館建設予定地に1～4Tを設定した。

1～3Tでは、表層にグラウンドの整地層があり、4Tでは表層に学校畑の耕作土があるが、いずれもその直下に旧校舎解体時の造成土がある。それより下層は4層の鬼界アカホヤ火山灰をはじめ良好な堆積状況を保っていた。遺物は霧島牛のすね火山灰(5層)よりも下位の6層から縄文土器や礫が出土しており、1Tと3Tでは比較的まとまって出土した。また、3Tでは遺構の可能性のある落ち込み状の痕跡も認められた。なお、2Tの最下部で確認された硬質の軽石濃集層は霧島小林軽石と推定される。すべてのトレンチで出土した土器(第21図1～8)は、縄文時代早期後葉の平格式土器である。また共出した焼礫は、礫を集めた集石遺構由来の散礫と考えられる。当該地には現地表面下約1.3mに縄文時代早期の遺跡(集落跡)が良好な状態で残存していると考えられる。

(3) まとめ

当該地は当初すぐ北側に隣接する平松遺跡の範囲外であるとされていたが、今回の調査で、縄文時代早期の遺物や遺構の可能性のある痕跡が確認されたため、平松遺跡がより南西側に広がることが明らかとなった。



1T 遺物出土状況



2T 下部土層断面



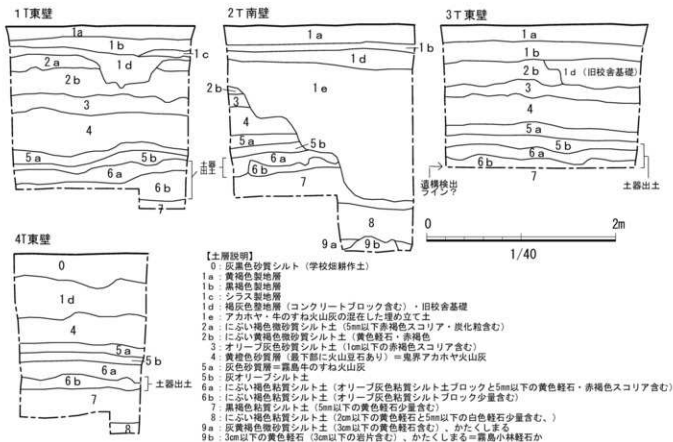
3T 遺物出土状況



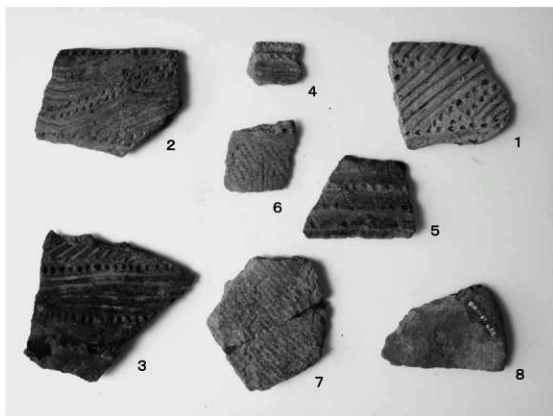
4T 遺物出土状況



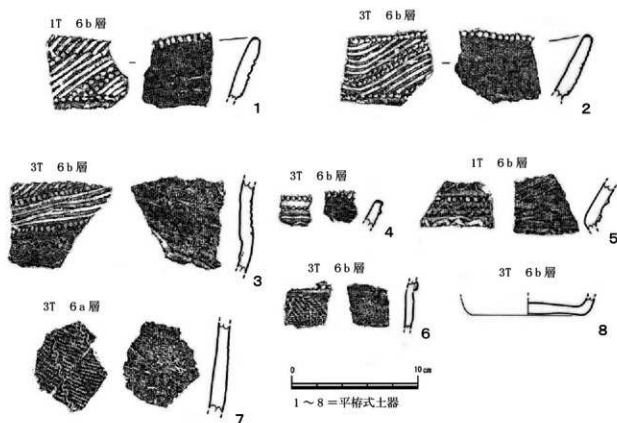
第19図 平松遺跡（笛水小学校）トレンチ配置図



第20図 平松遺跡トレンチ土層断面図



平松遺跡出土土器写真



第 21 図 出土土器実測図

5 築池遺跡 (県指定志和池村古墳4号墳)

【M10028】

調査地	宮崎県都城市下水流町 2541-1
調査原因	住宅建築
調査期間	2009.5.11～29
調査面積	101.5 m ² (対象面積: 1,343 m ²)
調査担当者	山下大輔・下田代清海
調査後の措置	協議 (一部調査後、現状保存)



第22図 調査区位置図 (S=1/10000)

(1) 位置と環境

対象地は都城市北部の志和池地区に所在し、標高約 142mのシラス台地上に位置する。対象地には県指定史跡の志和池村4号墳があり、周辺にも志和池村1号墳や2号墳といった県指定の高塚墳が点在している。また、本地域は地下式横穴墓が密集して検出されている地域で、これまでに50基以上の地下式横穴墓が発見・調査されている。

(2) 調査結果

対象地は県指定の史跡であるため、事前に宮崎県教育委員会文化財課と宮崎県立西都原考古博物館の協力を得て、地下レーダー探査を実施している。その結果を踏まえ、志和池村4号墳の周溝確認と地下レーダー探査の結果地下式横穴墓が存在する可能性が高い地点に確認トレンチを設定し、調査した。

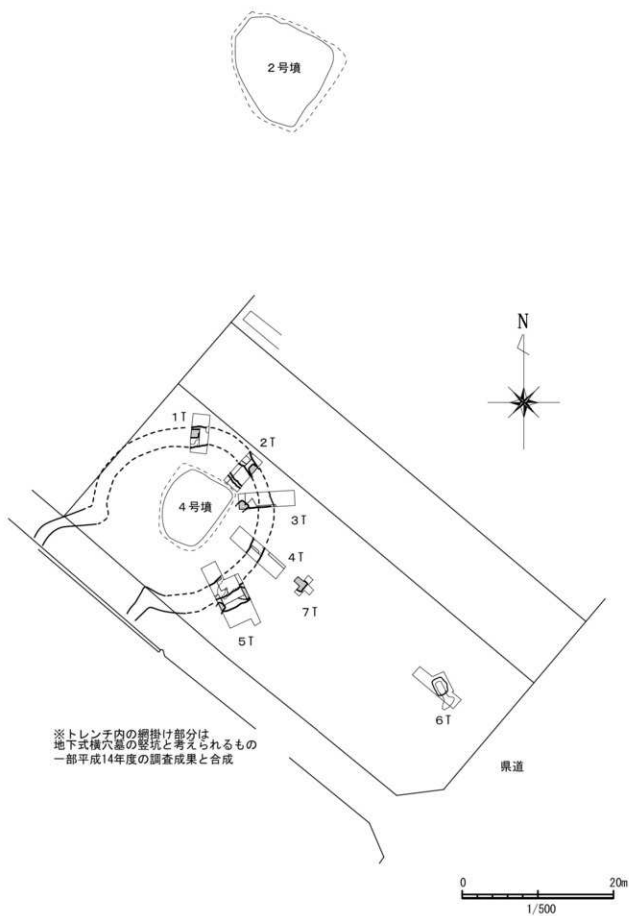
① 志和池村4号墳の周溝確認

県指定志和池村4号墳の周溝の走行方向を確認するため、墳丘を取り巻くように1～5Tを設定し、調査した。その結果、5本のトレンチのいずれにおいても墳丘に伴うと考えられる周溝を確認した。周溝の深度は1・2Tが1～1.2mと深く、南側に位置する5Tに向かうにつれて浅くなる。最も浅い4・5Tでは20cm程を測るのみである。幅員は検出位置によって異なるが、概ね1.5m～2.5mを測る。周溝に確実に伴うと考えられる遺物は出土していないが、1Tでは周溝の埋土から土師器坏(1)が出土している。5世紀後半の所産か。また、周溝内ないしは周辺で地下式横穴墓の堅坑部分と考えられる遺構を合計6基(7Tのものも含む)検出した。これらは掘り下げを行っておらず、平面的に確認したものである。これらの内、3Tの堅坑3は周溝よりも内側の墳丘内部で検出されている。トレンチの土層断面では墳丘盛土が堅坑内に向かい流れ込んでいる状況が見て取れることから、4号墳よりも時期的に先行する可能性が高いといえる。また、この堅坑3の範囲から若干外にはずれた位置から須恵器の壺(3)が出土している。ほぼ完形に復元できるもので、底部が打ち欠かれている。口縁部から胴部上半を中心に濃緑褐色の自然釉がかかる。5世紀後半期に帰属するものと考えられる。また、事前の地下レーダーにより地下式横穴墓と考えられる反応が得られていた範囲に設定した7Tにおいても堅坑6が検出され、丹塗りの高坏(4)と土師器の壺(5)が出土している。高坏の形態から6世紀後半頃の所産と考えられる。

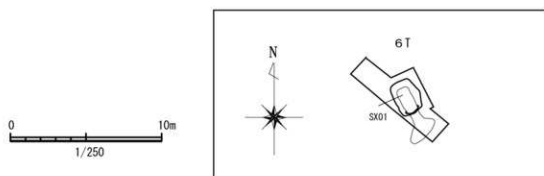
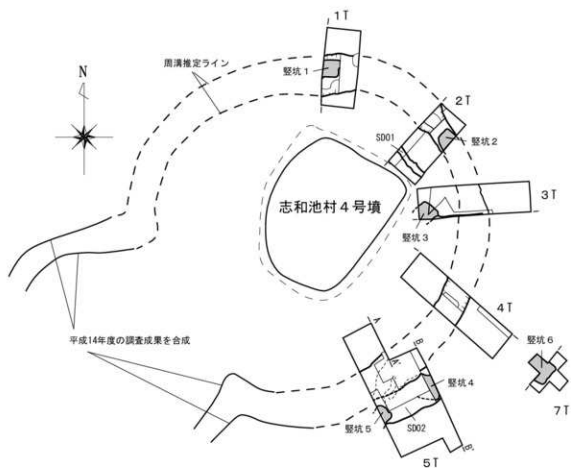
その他、2Tで古墳時代以降のSD01が、5Tでは地下式横穴墓と考えられる遺構2基が寄生するSD02が検出された。このSD02の埋土からは土師器坏(2)が出土している。3Tにおいても周溝に切られる形で古墳時代以前と考えられる遺構が検出されているが、時期・性格等の詳細は不明である。

② 地下式横穴墓の調査

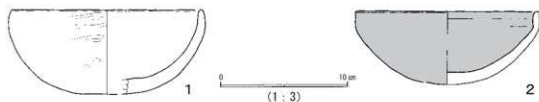
事前に行った地下レーダー探査による結果から、県道側に一箇所地下式横穴墓が存在している可能性が高いことが判明したため、該当箇所に6Tを設定し、堅坑の有無の確認調査を行った。この堅坑の平面プランを確認中に一部が崩落してしまったため、玄室を含めた緊急調査を実施した。その結果、平入りの玄室を有す地下式横穴墓(TK2009-SX01)であることが判明した。このSX01は長軸2.3m、短軸1.74mを測る長方形を呈す堅坑を有し、楕円形を呈す両袖の玄室はやや右上がりとなる。玄室内には頭位が北東方向にある人骨が一体埋葬されており、頭蓋骨周辺には副葬品と考えられる勾玉1点(17)・管玉10点(18～27)・ガラス小玉270点以上(28～49)などの装飾品や、鉄鏃(10～14)・刀子(15)鉄刀(16)などの鉄器が出土した。ガラス小玉は破砕しているものも多く、実数は不明だが合計270点以上が出土



第23図 調査区域図 (S=1/500)

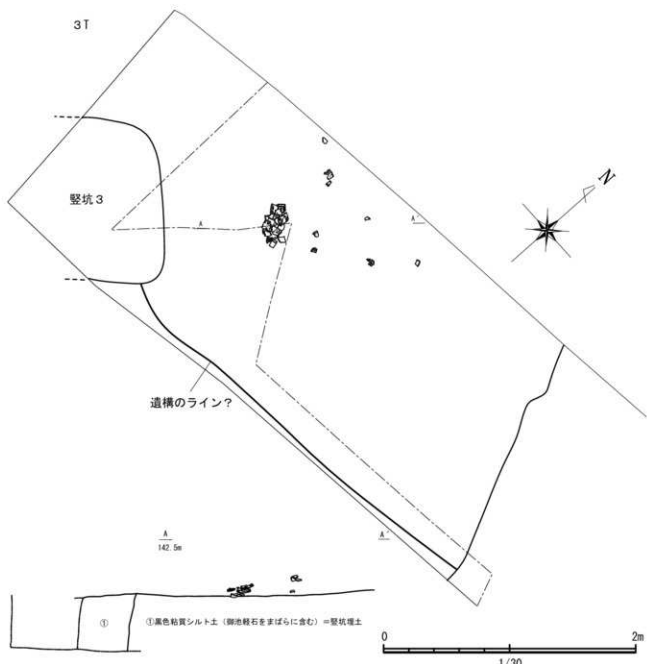


第24図 確認調査トレンチ配置図 (S=1/250)

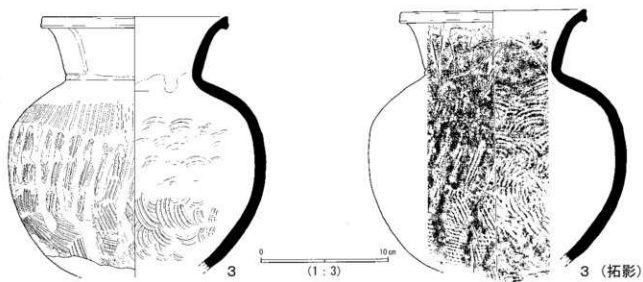


第25図 1T・2T 出土遺物実測図 (S=1/3)

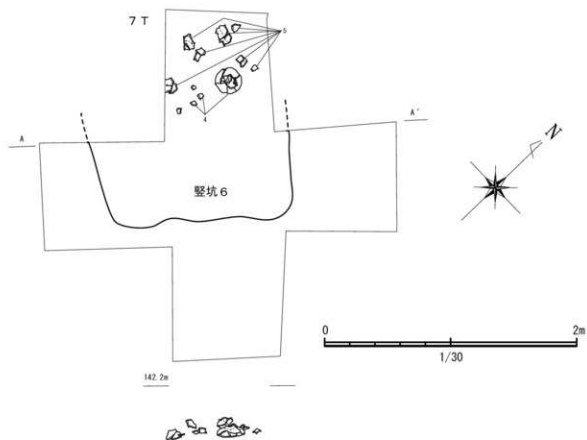
している。直径は1~4mm程度で、比較的大きめの資料のみ図化した。色調も様々で、淡緑色が最も多いが他にも濃青色、赤茶色、淡青色等が確認できる。鉄鐙の編年からは5世紀後葉頃の所産と考えられる。



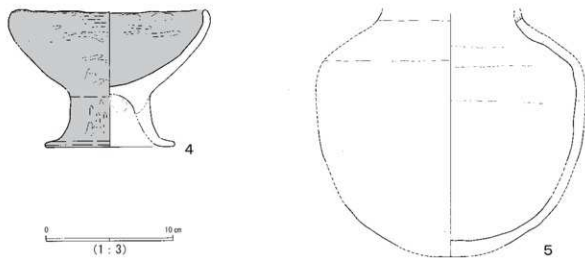
第27図 3T 遺物出土状況実測図 (S=1/30)



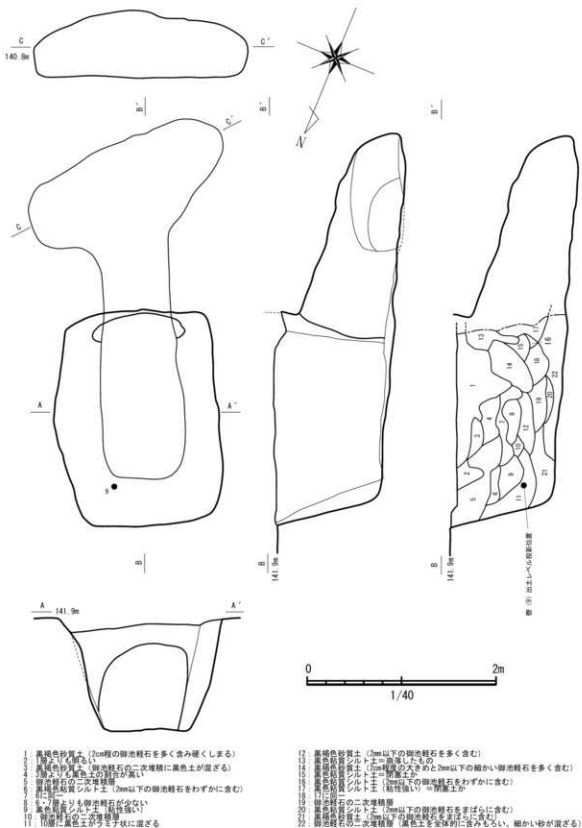
第28図 3T 出土遺物実測図 (S = 1/3)



第29図 7T 遺物出土状況実測図 (S=1/30)

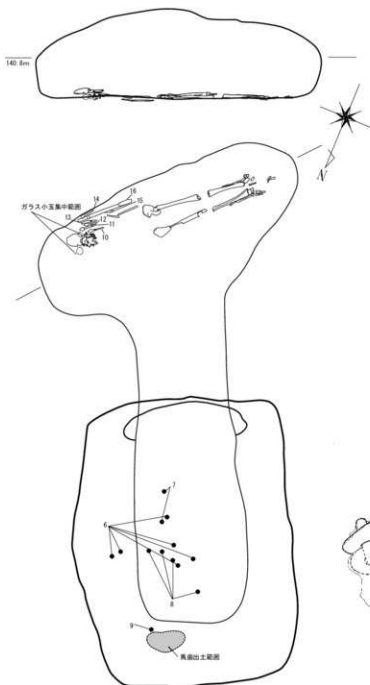


第30図 7T 出土遺物実測図 (S=1/3)

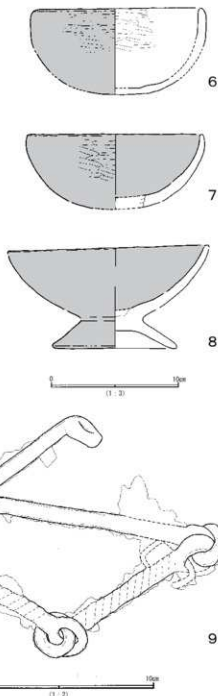


第31図 6T SX01実測図 (S=1/40)

また、堅坑埋土中からは饗骨が出土している (9)。この饗骨に近接して馬歯と考えられるものが出土している。堅坑内埋土の土層断面観察からは他遺構の切り合い等はみられないことから、これらの饗・馬



第32図 SX01 人骨・遺物出土状況実測図
(S=1/30)



第33図 6T SX01 出土遺物実測図 (S = 1/3, 1/2)

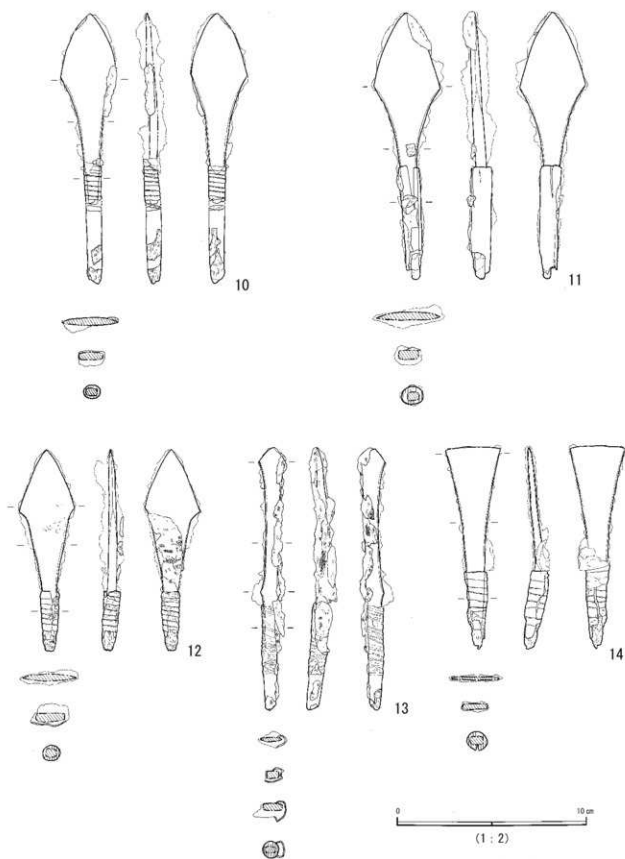
の頭部は堅坑内に埋葬されたものと考えられる。

さらに、堅坑のプランを検出するための掘り下げ中に堅坑上部で多くの土師器片が出土している。ほとんどが碎片での出土であったが、接合の結果、少なくとも3個体分の土師器杯(6・7)と高杯(8)が確認できた。いずれも現況は部分的に確認できるのみだが、器面全体に赤色顔料が塗布されていたものと思われる。これらの遺物は実際に堅坑を検出したレベルよりも10~20cm程上位で出土している。

調査後は、玄室の崩落を防ぐためシラスを入れた土嚢袋を充填し、埋め戻しを実施した。

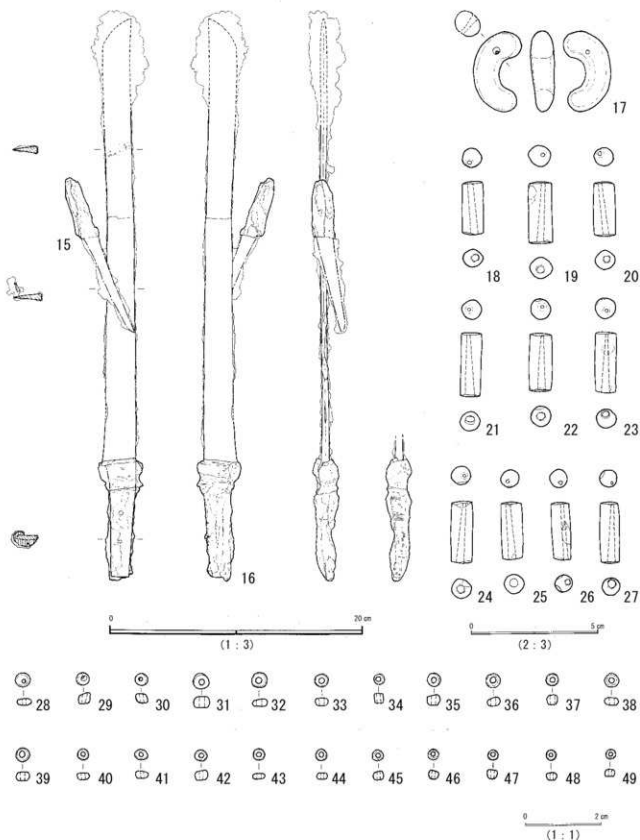
(3) まとめ

志和池村4号墳については、平成14年度の隣接地における調査成果から前方後円墳である可能性が指摘されていた。今回の調査における周溝の走行方向の確認調査からは、この指摘どおり本来は前方後円



第 34 図 6T SX01 出土鉄鏃実測図 (S = 1/2)

墳であった可能性が極めて高いという結果が得られた。この周溝に寄生する形で地下式横穴墓の堅坑であると考えられる遺構が検出されている。また、周溝から離れたところでも堅坑と考えられる遺構が検出された。6T の SX01 については、検出中に一部崩落してしまったため緊急の調査を実施することとな



第35図 6T SX01 出土鉄刀・勾玉・管玉・ガラス小玉実測図 (S = 1/3, 2/3, 1/1)

ったが、結果的に多くの知見が得られた。その中でも、堅坑部に馬の頭部と馬具（鏝轡）を埋葬したと考えられる事例を得られたことは重要な成果といえる。また、玄室内からも人骨をはじめ勾玉・管玉・ガラス小玉等の玉類や、鉄鏃・鉄刀といった豊富な副葬品が出土しており、追葬は認められないことから遺物の編年を組み立てる際にも貴重な資料といえる。

第1表 出土遺物観察表

須臾器・土師器観察表

図版番号	遺物番号	種類	出土遺構・地点	法量 (cm)			文様・調色	色調		胎土	備考
				口径	底径	高さ		外面	内面		
25	1	土師器 鉢	17 竪溝	15.0	5.0	6.7	七字キ・ナデ	1字ナナナデ	灰青胎	灰色・茶色底物	反転度元
	2	土師器 鉢	27 S902	14.6	1.6	5.8	ナデ	浅黄胎	浅黄胎	赤茶色・黒底底物	反転度元 丹塗り
28	2	土師器 鉢	27	14.6	—	—	平打タタキ	赤て貝胎	灰色～濃緑胎	灰色	濃緑色の目耳輪が小さく 底打欠片
30	4	土師器 高杯	27 型坑6	15.2	10.4	10.0	七字キ	七字キ	浅黄胎	浅黄胎	藍色・灰色底物
	5	土師器 鉢	27 型坑6	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄胎	にぶい黄胎	赤色・黒色底物
31	6	土師器 鉢	S301 型坑上	13.0	4.0	6.6	七字キ	七字キ	にぶい黄胎	にぶい黄胎	赤色・黒色底物
	7	土師器 鉢	S301 型坑上	13.8	—	—	七字キ	七字キ	にぶい黄胎	にぶい黄胎	赤茶色・黒底底物
8	土師器 高杯	S301 型坑上	14.9	9.8	8.3	七字キ	七字キ	にぶい黄胎	にぶい黄胎	黒子砂粒	反転度元 丹塗り 全体的に磨粒

鉄鍔・刀子・鉄刀観察表

図版番号	遺物番号	出土遺構	種類	法量 (cm)			備考
				全長	刃部長	刃部幅	
34	10	SX01	鉄鍔	14.3	3.4	3.0	三角形鍔 一部織埋付着 錆皮・木質残る
	11	SX01	鉄鍔	14.1	4.0	3.5	三角形鍔 一部織埋付着 木質残る
	12	SX01	鉄鍔	10.6	3.2	2.9	三角形鍔 一部織埋付着 錆皮・木質残る
	13	SX01	鉄鍔	13.8	0.7	1.4	長細鍔 一部織埋付着 赤・木質残る
	14	SX01	鉄鍔	10.7	—	2.9	方頭鍔 一部鉄刀の垂角付着 錆皮・木質残る
35	15	SX01	刀子	13.2	(8.5)	(1.1)	柄・垂角製
	16	SX01	鉄刀	(13.3)	(34.3)	2.7	把巻器具・垂角製 把間・木製。一部磨粒の痕跡残る 目釘孔は2ヶ所のみ

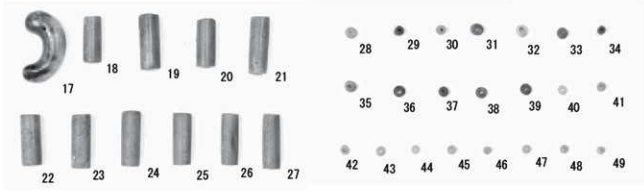
玉類観察表

図版番号	遺物番号	出土遺構	種類	材質	色調	法量 (cm)			備考
						長さ (最大)	幅 (最大)	厚さ (最大)	
35	17	SX01	勾玉	瑪瑙	にぶい黄褐色	3.2	1.1	0.9	
図版番号	遺物番号	出土遺構	種類	材質	色調	法量 (mm)			備考
						長さ (高さ) (最大)	径 (最大)	孔径 (最大)	
35	18	SX01	管玉	碧玉	淡緑色	21	8.0	1.5・2.9	
	19	SX01	管玉	碧玉	淡緑色	24.5	9.5	1.5・2.6	
	20	SX01	管玉	碧玉	淡緑色	21.5	9.0	1.1・2.5	
	21	SX01	管玉	碧玉	淡緑色	25.5	8.5	1.0・3.5	
	22	SX01	管玉	碧玉	淡緑色	23	9.0	1.0・3.0	
	23	SX01	管玉	碧玉	淡緑色	24.5	9.0	1.0・2.5	
	24	SX01	管玉	碧玉	淡緑色	24.5	8.5	1.1・3.0	
	25	SX01	管玉	碧玉	淡緑色	23	8.5	1.0・3.0	
	26	SX01	管玉	碧玉	淡緑色	23	7.0	1.0・2.1	
	27	SX01	管玉	碧玉	淡緑色	24	7.0	1.0・3.0	
	28	SX01	小玉	ガラス	淡緑色	1.9	3.8	1.0	鉄鍔周辺出土
	29	SX01	小玉	ガラス	赤茶色	3.0	3.1	1.2	
	30	SX01	小玉	ガラス	淡緑色	2.9	3.0	1.0	
	31	SX01	小玉	ガラス	濃青色	3.0	3.9	1.1	
	32	SX01	小玉	ガラス	淡緑色	2.0	4.0	1.5	
	33	SX01	小玉	ガラス	濃青色	2.0	3.4	1.4	
	34	SX01	小玉	ガラス	赤茶色	2.5	2.5	1.2	
	35	SX01	小玉	ガラス	淡緑色	2.9	3.5	1.1	人骨上半身周辺出土
	36	SX01	小玉	ガラス	濃青色	2.2	3.9	1.3	人骨上半身周辺出土
	37	SX01	小玉	ガラス	赤茶色	2.9	3.0	1.2	人骨上半身周辺出土
	38	SX01	小玉	ガラス	濃青色	2.0	3.5	1.1	人骨上半身周辺出土
	39	SX01	小玉	ガラス	濃青色	2.2	3.5	1.9	人骨上半身周辺出土
	40	SX01	小玉	ガラス	淡青色	1.9	2.9	1.0	人骨右耳周辺出土
	41	SX01	小玉	ガラス	淡緑色	2.7	3.0	1.1	人骨左耳周辺出土
	42	SX01	小玉	ガラス	淡青色	2.0	3.4	1.0	人骨左耳周辺出土
	43	SX01	小玉	ガラス	淡緑色	1.2	2.9	1.0	人骨左耳周辺出土
	44	SX01	小玉	ガラス	淡緑色	1.4	2.9	1.1	人骨左耳周辺出土
	45	SX01	小玉	ガラス	淡青色	2.1	3.0	1.0	人骨右耳周辺出土
	46	SX01	小玉	ガラス	淡青色	2.2	3.0	1.0	人骨右耳周辺出土
47	SX01	小玉	ガラス	淡青色	2.2	2.8	1.1	人骨右耳周辺出土	
48	SX01	小玉	ガラス	淡青色	2.0	2.8	1.1	人骨右耳周辺出土	
49	SX01	小玉	ガラス	淡青色	2.0	2.3	1.0	人骨右耳周辺出土	

馬具観察表

図版番号	遺物番号	出土遺構・地点	種類	備考
33	9 SX01	型坑	銅押	鹿角が遺存 銜：1條振りか? 遺囀：有

志和池村 4号墳確認調査出土遺物





調査前風景（南東から）



1T 周溝検出状況（北から）



1T 周溝土層断面（東から）



1T 周溝内竖坑1 検出状況（南から）



2T 周溝・竖坑2 検出状況（南西から）



2T 周溝土層断面（南東から）



3T 周溝検出状況（東から）



3T 周溝土層断面（北から）



3T 竖坑3付近出土須恵器壺(東から)



3T 竖坑3土層断面(北東から)



4T 周溝検出状況(北西から)



4T 周溝土層断面(南西から)



5T 周溝土層断面(西から)



5T SD02・竖坑4(右)・竖坑5(左)検出状況
(南東から)



7T 竖坑6・遺物検出状況(南東から)



6T SX01 竖坑検出状況(北西から)



6T SX01 竖坑土层断面（南西から）



6T SX01 玄室内人骨出土状況（北西から）



6T SX01 玄室内人骨・遺物出土状況



6T SX01 玄室内遺物出土状況



6T SX01 竖坑内馬首出土状況



6T SX01 竖坑内馬首出土状況



6T SX01 完掘状況（北西から）



6T SX01 全景（北西から）

(4) 築池地下式横穴墓群 TK2009-SX01 出土の古墳時代人骨

竹中正巳・下野真理子（鹿児島女子短期大学）

2009年5月、宮崎県都城市築池横穴墓群 TK2009-SX01 墓が発見された。玄室内からは、人骨1体のほかに、鉄刀、鉄鏃、曲玉、管玉、ガラス玉が出土している。人骨の保存状態はよくないが、全身の骨が遺存している（第4表）。赤色顔料は全身の骨に付着しており、人骨の周囲からも検出されている。人骨の出土状態から仰臥伸展位で埋葬されていたと判断できる。人骨の所属年代は、考古学的な所見から、古墳時代後期に属すと考えられる。

出土した人骨の性別は、眉弓の突出が弱いことから女性と判断される。年齢は歯の咬耗度が Martin の1度であることから、壮年と推定できる。歯の歯式は次の通りである。

8 7 × 5 4 × × 1	1 2 3 4 5 6 7 8	・ : 遊離歯
8 7 6 5 × 3 × ×	× × × 4 5 6 7 8	
.	

観察できた歯の中で、下顎左第一小白歯、下顎左第二大臼歯と下顎右第二大臼歯に C2 のう蝕が、また上顎第一大臼歯の頬側面にエナメル質減形成が認められる。

頭蓋形態小変異の観察では、前頭縫合は観察されない（第2表）。計測できたのは脛骨の栄養孔位周のみであった（第3表）。

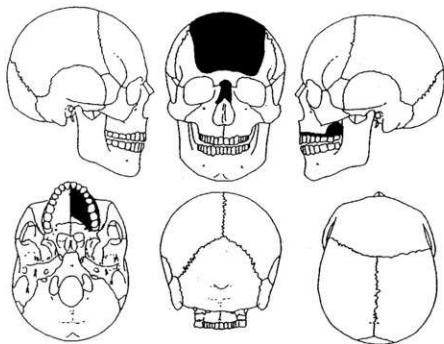
第2表 築池地下式横穴墓群出土 TK2009-SX01 女性壮年人骨の頭蓋形態小変異の出現状況

	築池	
人骨番号	TK2009-SX01	
性別	女性	
年齢	壮年	
	右	左
前頭縫合残存	-	

第3表 築池地下式横穴墓群出土 TK2009-SX01 女性壮年成人骨の脛骨計測値 (mm) 及び示数

脛骨 M No.	人骨番号		築池 TK2009-SX01	
	性別		女性	
	年齢		壮年	
1	全長	左		
		右		
1a	最大長	左		
		右		
8	中央最大径	左		
		右		
9	中央横径	左		
		右		
10	骨体周	左		
		右		
8a	栄養孔位最大径	左		
		右		
脛骨 M No.	人骨番号		築池 TK2009-SX01	
	性別		女性	
	年齢		壮年	
9a	栄養孔位横径	左		
		右		
10a	栄養孔位周	左	72	
		右	72	
10b	骨体最小周	左		
		右		
9/8	中央断面示数	左		
		右		
9a/8a	栄養孔位断面示数	左		
		右		
10b/1	長厚示数	左		
		右		

第36図 各骨の遺存状況

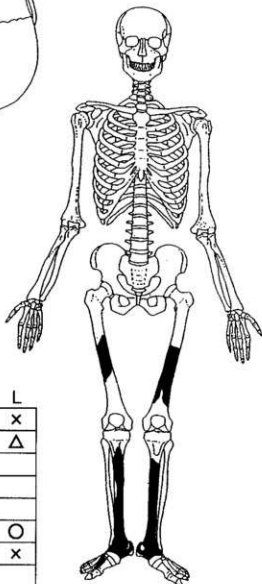


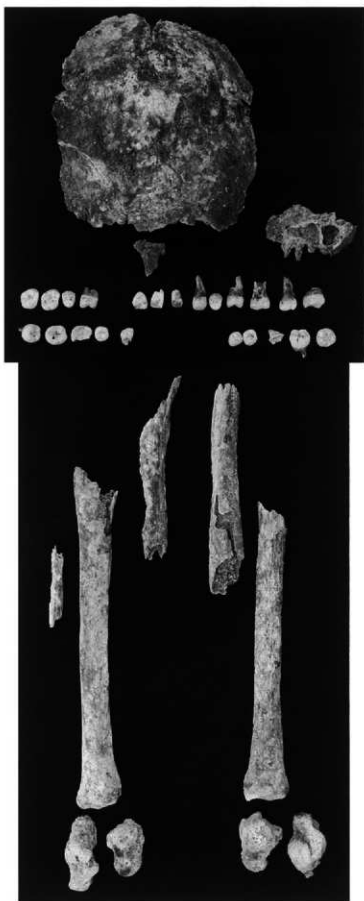
第4表 体幹体肢骨の保存状態

脊柱	頸椎		
	胸椎		
	腰椎		
	仙骨		
	尾骨		
胸郭	胸骨		
	肋骨		

		R	L
上肢	肩甲骨		
	鎖骨		
	上腕骨	x	x
	桡骨		
	尺骨		
	手根骨		
	中手骨		
	指骨(指)		

		R	L
下肢	寛骨	x	x
	大腿骨	x	△
	膝蓋骨		
	脛骨	○	
	腓骨	x	
	足根骨	○	○
	中足骨	x	x
	指骨(足)		





築池地下式横穴墓群 TK2009-SX01 墓出土の古墳時代女性壮年人骨（上：頭蓋 下：下肢）

ひがしほろ町いさん
6 東原第3遺跡【M8014】

調査地	宮崎県都城市菓子野町 10088
調査原因	建物建設
調査期間	2009.7.21・23・24
調査面積	16.5 m ² (対象面積：2,005 m ²)
調査担当者	山下大輔
調査後の措置	協議



第37図 調査区位置図 (S = 1/10000)

(1) 位置と環境

大淀川の支流である庄内川左岸の河岸段丘上に立地する。北側背後には広大な成層シラス台地である谷頭台地がある。

(2) 調査結果

1～4 Tを設定し、表土から人力により掘り下げを行い、遺跡の有無の確認を行った。

対象地の北東端に設定した1 Tでは表土・桜島文明軽石・黒色土・霧島御池軽石漸移層の順に堆積しており、漸移層中で土坑状の遺構を検出した。この遺構の上部のみに桜島文明軽石が掘り鉢状に堆積していることから、遺構の帰属時期は15世紀後半以前の中世のものと考えられる。遺物は黒色土中から縄文時代晩期の土器片1点が出土しているのみである。2～4 Tでは表土以下黒色土はほとんど残っており、それより下位の霧島御池軽石漸移層以下は良好な堆積が確認できた。掘り下げは鬼界アカホヤ火山灰と桜島11テフラ・桜島末吉軽石よりも下位の縄文時代早期相当層まで掘り下げたが、遺構・遺物共に検出されていない。遺物は4 Tの表土層から弥生時代中期の土器(第39図)が少量出土したのみで、それ以外のトレンチでの出土はなかった。

(3) まとめ

対象地北側の表土直下に黒色土が残っている範囲では、密度は低いものの一部遺跡が遺存している可能性が高い。それ以外の範囲では遺跡が存在する可能性は低いと考えられる。



第38図 東原第3遺跡トレンチ配置図

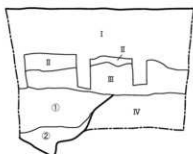


1T 遺構検出状況

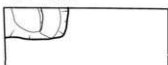


第39図 東原第3遺跡出土遺物実測図

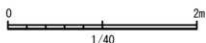
1 T 東壁



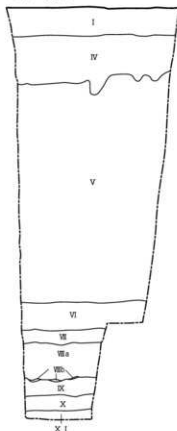
1 T 平面図



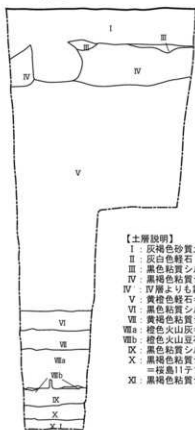
遺構内埋土
 ①: 黒褐色粘質シルト土 (御池軽石をわずかに含む)
 ②: ①層より粘り強い



2 T 東壁



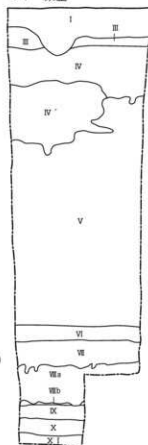
3 T 東壁



【土層説明】

- I : 灰褐色砂質土 (黄色軽石・白色軽石多く含む) = 表土
- II : 灰白色軽石 (I層と混ざる) = 稲島文明軽石
- III : 黒色粘質シルト土 (霧島御池軽石をわずかに含む)
- IV : 黒褐色粘質シルト土
- IV' : IV層よりも霧島御池軽石を多く含む硬くしまる層
- V : 黄褐色軽石 = 霧島御池軽石
- VI : 黒色粘質シルト土 (粘性極めて強い)
- VII : 黄褐色粘質シルト土 (鬼界アカホヤ火山灰の2次堆積)
- VIIa : 棕色火山灰 = 鬼界アカホヤ火山灰
- VIIb : 棕色火山豆石
- IX : 黒色粘質シルト土 (硬くしまる)
- X : 黒褐色粘質シルト土 (黄色軽石・褐色スコリア多く含む) = 稲島11チフラ (P11軽石)
- XI : 黒褐色粘質シルト土

4 T 東壁



第40図 東原第3遺跡トレンチ土層断面・平面図

7 おおくぼだいいち 大久保第1遺跡【M8003】

調査地	宮崎県都城市乙房町 2172 ほか
調査原因	福祉施設建設
調査期間	2009.9.28・29
調査面積	20 m ² (対象面積：6,382 m ²)
調査担当者	山下大輔・下田代清海
調査後の措置	協議



第41図 調査区位置図 (S=1/10000)

(1) 位置と環境

調査対象地は、大淀川の支流庄内川右岸の成層シラス台地（月野原台地）の北縁部に位置する。東方約200mの地点にある大久保第2遺跡では、平成9年10月～平成10年3月の民間の福祉施設建設に先立つ発掘調査によって弥生時代後期の竪穴住居跡群が見つかった。

(2) 調査結果

当該地は平成17年12月19・20日に確認調査を実施しているが、その際に調査が実施できなかった牛舎跡（当時は建物が残っていた）部分に5本のトレンチを設定し、遺跡の有無の確認調査を行った。対象地の北端に設定した7Tでは牛舎の基礎により弥生時代の遺物包含層と考えられる黒色土（2層）まで削平されているため、霧島御池軽石層の上位では遺構・遺物ともに検出されていない。その後、鬼界アカホヤ火山灰下位での遺跡の有無を確認したところ、桜島11テフラ・桜島末吉軽石（9層）の直下で縄文時代早期の土器（第42図、塞ノ神A式土器）と礫を検出した。8Tでも黒色土（2層）はほとんど削平されていたが、弥生土器が1点出土している。遺構は確認されていない。9Tは地表下3mまで掘り下げたが、牛舎に伴うと考えられるゴミ穴（排泄物処理用か）のため地山層は確認できなかった。10Tは黒色土がわずかに遺存しており、そこから弥生土器が数点出土しているが遺構は検出されていない。鬼界アカホヤ火山灰以下まで掘り下げたが遺構・遺物は検出されなかった。11Tでは遺物は出土していないが、霧島御池軽石の上位で土坑ないしはピットと考えられる落ち込みを検出した。

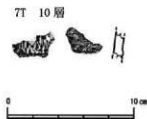
(3) まとめ

今回の調査結果と平成17年に実施した前回の調査結果を勘案すると、対象地北側の1～3トレンチ、7・8T周辺は一部牛舎の基礎により掘削されているが、弥生時代の遺跡が遺存している可能性が高い。また、それより下位には縄文時代早期の遺跡が残っているものと考えられる。

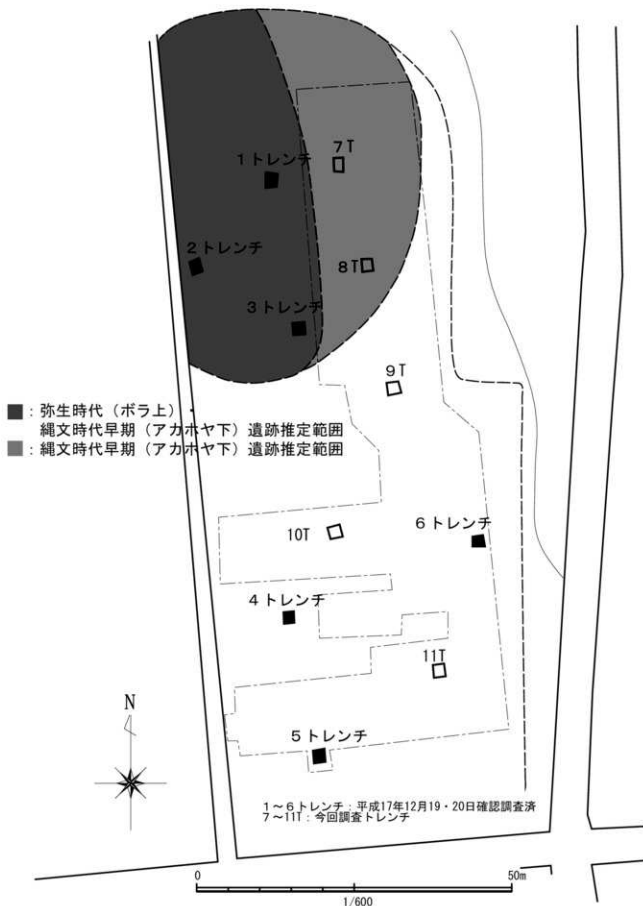
対象地の南側に関しては、遺構と考えられるものが検出されたトレンチや遺物が若干出土しているトレンチもあるが、全体的には遺物包含層が部分的に残っているのみと判断できる。



7T 下部土層断面

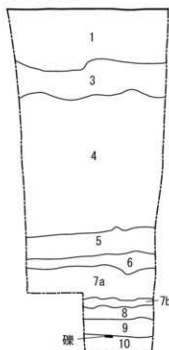


第42図 大久保第1遺跡出土遺物実測図

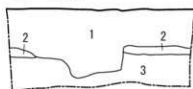


第43図 大久保第1遺跡トレンチ配置図

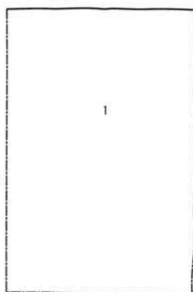
7T 北壁



8T 北壁



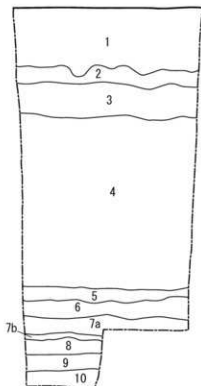
9T 北壁



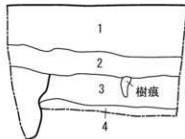
土層説明

- 1: 黒褐色砂質土 (上部はシラス) = 造成土
 2: 黒色粘質シルト土 (粘性強い)
 3: 黒褐色粘質シルト土
 (霧島御池軽石を多く含む)
 4: 黄褐色軽石 = 霧島御池軽石
 5: 黒色粘質シルト土 (粘性強い)
 6: 灰褐色粘質シルト土
 (褐色土が斑点状に混ざる)
 7a: 橙色火山灰 = 鬼界アカホヤ火山灰
 7b: 火山豆石
 8: 黒褐色粘質シルト土
 (黄色軽石をわずかに含み硬くしまる)
 9: 灰褐色粘質シルト土
 (黄色軽石・褐色スコリアを多く含む) = 桜島11テフラ (P11軽石)
 10: 灰褐色粘質シルト土 (粘性強い)

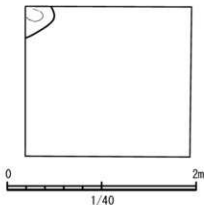
10T 北壁



11T 西壁



11T 平面図



第44図 大久保第1遺跡トレンチ土層断面図・遺構平面図

8 狐東遺跡【M5003】

調査地	宮崎県都城市平塚町 3172-1 ほか
調査原因	福祉施設建設
調査期間	2009.12.2～4
調査面積	28 m ² (対象面積：7,276 m ²)
調査担当者	山下大輔・柴畑光博
調査後の措置	慎重工事



第45図 調査区位置図 (S = 1/10000)

(1) 位置と環境

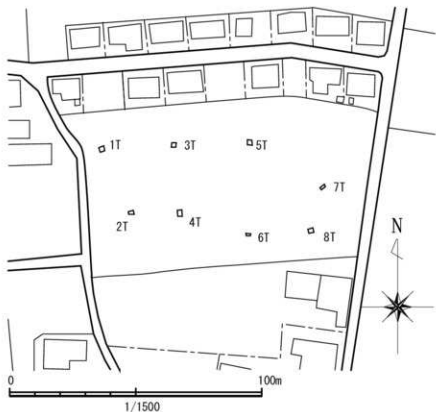
調査対象地は東側と南側を浸食谷に挟まれた成層シラス台地上に位置する。この対象地に合計8本のトレンチを設定し、遺跡の有無の確認調査を行った。

(2) 調査結果

対象地の北西側に設定した1Tと3Tについては耕作によると考えられる攪乱が地表下約0.9mまで及んでおり、現耕作土の直下は霧島御池軽石の漸移層ないしは霧島御池軽石となる。それ以外のトレンチにおいては、表土以下良好な堆積をみせるが、いずれのトレンチにおいても遺構・遺物は検出されていない。8Tでは表土の直下に文明軽石降下後の所産と考えられる溝状のものが検出されているが、詳細な時期と性格等は不明である。2Tと5Tについては鬼界アカホヤ火山灰以下まで掘り下げて遺跡の有無の確認を行ったが、いずれのトレンチからも遺構・遺物は検出されなかった。

(3) まとめ

今回の確認調査を行った対象地においては遺構・遺物は検出されておらず、霧島御池軽石上位および鬼界アカホヤ火山灰下位においても遺跡が存在する可能性は低いと考えられる。



第46図 狐東遺跡トレンチ配置図

報告書抄録

ふりがな	みやこのじょうしないいせき
書名	都城市内遺跡 3
副書名	
巻次	
シリーズ名	都城市文化財調査報告書
シリーズ番号	第101集
編・著者名	柴畑充博・久松 亮・近沢恒典・山下大輔
編集機関	都城市教育委員会事務局文化財課 Tel 0986-23-9547 Fax 0986-23-9549
所在地	宮崎県都城市葛蒲原町19-1 都城市役所葛蒲原町別館 〒885-0034
発行年月日	2010年3月25日

所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
下切遺跡・樋掛遺跡・鍋前第2遺跡	都城市高崎町大牟田1577-2ほか	31° 52' 44" 付近	131° 4' 40" 付近	2008.4.27~8.27	110㎡	農業関連事業
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	縄文・弥生・古墳・平安時代	土坑・ピット・道跡		土器・土師器		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
八久保第2遺跡	都城市高崎町有水1587-77付近	31° 52' 46" 付近	131° 7' 27" 付近	2009.6.25-26	5㎡	道路
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	古墳・平安	なし		土器・土師器		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
王子山遺跡	都城市山之口町花木2580-1	31° 46' 54" 付近	131° 9' 22" 付近	2009.8.4	18㎡	学校
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
城館跡	縄文	集石遺構?		土器		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
平松遺跡	都城市高崎町笛水959	31° 55' 53" 付近	131° 7' 8" 付近	2009.8.10-11	14.25㎡	学校
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	縄文	集石遺構?		土器		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
築池遺跡(県指定志和池村古墳4号墳)	都城市下水流町2541-1	31° 48' 53" 付近	131° 6' 10" 付近	2009.5.11~29	101.5㎡	住宅
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
古墳	古墳	周溝・地下式横穴墓		須恵器・鉄器・勾玉・ガラス玉		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
東原第3遺跡	都城市菓子野町10088	31° 46' 49" 付近	131° 3' 14" 付近	2009.7.21-23-24	16.5㎡	建物
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	縄文・弥生	土坑		土器		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
大久保第1遺跡	都城市乙房町2172	31° 45' 56" 付近	131° 2' 49" 付近	2009.9.28-29	20㎡	福祉施設
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	縄文・弥生	なし		土器		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
狐東遺跡	都城市平塚町3172-1ほか	31° 43' 6" 付近	131° 1' 8" 付近	2009.12.2~4	28㎡	福祉施設
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	中世・近世	なし		なし		

都城市文化財調査報告書第101集

都城市内遺跡 3

2010年3月

編 集 宮崎県都城市教育委員会
発 行 〒885-1902 宮崎県都城市高嶺原町19-1
都城市役所高嶺原町別館
TEL (0986) 23-9547 FAX (0986) 23-9549
印 刷 株式会社 文昌堂